

第 16 回 英国緩和ケア視察研修に参加して

2014 年 11 月 26 日～12 月 4 日、英国／ブリストル・バース・ロンドンにて緩和ケア視察研修に参加させて頂いた。

日程は以下の通りである。

11 月 26 日	成田発、ロンドン・ヒースロー空港到着、ブリストルへ移動
11 月 27 日	Penny Brohn Cancer Care 視察研修
11 月 28 日	Penny Brohn Cancer Care 視察研修
11 月 29 日	Drothy House Hospice 視察研修 ロンドンへ移動
11 月 30 日	Nightingale museum 視察,
12 月 1 日	(午前)St. Christopher's Hospice 視察研修 (午後)University Hospital Lewisham 視察研修
12 月 2 日	(午前)King's Colledge Hospital 視察研修 (午後)Maggie's London 視察研修
12 月 3 日	ロンドン・ヒースロー空港発 (機内泊)
12 月 4 日	成田空港にて解散

研修内容：

Penny Brohn Cancer Care：

身体的医療だけでなく、精神や感情を含めたケアを行うために設立。がんと診断された時から患者とその家族が医療的なサービスと平行して補完的サービスを受けることができる。

がんと診断されたときからの全人的医療の必要性とその内容について、リンパ浮腫ケアについて、緩和ケアと栄養について学んだ。

Dorothy House：

終末疾患患者は病院内ではなく生活するコミュニティーでのケアが必要であると感じ設立。終末期医療の他、症状緩和目的の入院、リンパ浮腫に対するケアも提供している。

英国における終末期医療の現状とサービスの質と内容について、また、緩和医療におけるチーム医療について、リンパ浮腫ケアについて学んだ。

St. Christopher's Hospice :

Dame Cicely Saunders により近代的なホスピスの先駆けとして 1967 年に設立、現在でも在宅患者を含めて質の高いケアを年間 2000 名に提供している。英国での緩和ケアの歴史と変遷、ホスピスにおける緩和ケアの提供内容と体制について学んだ。

University Hospital Lewisham

教育・研究機能を有する病院として 1997 年に大学として認定された。ここでは、緩和ケアにおけるチーム医療。療養の場所の選択、キリスト教牧師によるスピリチュアルケアの実践について学んだ。

King's Colledge Hospital

1840 年開設。世界的な大規模病院としての地位を確立している。今回の研究ではその中の Cicely Saunders Institute にて、緩和ケアに関する研究の必要性とその現状について学んだ。

Maggie's London

2008 年、チャリングクロス総合病院に隣接して開設。がんと診断された患者とその家族はだれでも利用でき、提供されるサービスはすべて無料である。がん患者の苦悩とそれを支えるサービス内容について学んだ。

イギリスは近代ホスピス発祥の地であり、緩和ケアの歴史は日本のそれより長い。がん患者の苦悩は個々において様々であるが、それに対応したサービスを患者だけでなく、その家族もすべて無料で受けることができる体制がそこにはある。運営の財源は税金と豊富な寄付でまかなわれており、日本における緩和ケアの状況より全体的にはかなり整備されている印象を受ける。しかし、ホスピスに入所することや、サービスを受ける際の心理的な障壁が大きいことは同様で、療養の場の選択に苦慮するケースが多いことも同様であった。今回学んだことをさらに整理し、日本に導入可能なシステムやサービスの導入を検討し、日本のがん患者の苦悩緩和に貢献できるようにしたいと考えている。

最後に、今回の研修に同行頂いた、阿部まゆみ先生、通訳の谷田さんはじめ、参加者の皆様に感謝を申し上げます。

緩和医療学講座 大澤岳史